1987.11.14 日本生涯教育学会発表申込

「　パソコン通信の双方向性と相互教育力　ーその現状と可能性ー　」

国立教育会館社会教育研修所専門職員　　西村美東士

［物理的要因］

１　双方向メディアとしてのユニークさ

２　パソコン通信の経済性と大衆性

３　在宅メディアとしての可能性

４　情報処理形態の多様化、自由化

［パソコン通信への「参加」の諸相］

１　ＲＯＭ（Ｒｅａｄ　Ｏｎｌｙ　Ｍａｎ）ー読んでばかりいる人

２　おしゃべりサロン化

３　ＷＯＭ（Ｗｒｉｔｅ　Ｏｎｌｙ　Ｍａｎーどんどん書きまくるが、レスポンスのない人

４　レスポンスする人、される人

［「知」に関する論議の実際］

１　「知的技術」への関心と懐疑

２　「集団」への関心と懐疑

３　「知」そのものへの関心と「反発」

［相互教育力の視点から見たパソコン通信の可能性と課題］

１　「異質の交流」による可能性

２　アマチュアリズムによる可能性

３　在宅メディアとしての問題点の克服

　　ー単に集合学習を対置するのでなく

４　会費に見合うだけの「得する」情報を求める受動的情報摂取姿勢から、情報と認識の主体的交流のネットワークへ

1987.11.14 日本生涯教育学会ＡＣＳ報告

本論の趣旨

本論の趣旨は、要は「イロ、モノ、カネ」の「学習」と価値創造の学習の連続性、そしてそれらの学習の両方を促進するシステムとしてのパソコン通信の重視です。

特に「学習援助」の機能の評価については、異論もあるかと思いますので、よろしくお願いします。

なお、ここで言う「学習」とは、「学習参考書」の「学習」ではなく、成人の広い意味での生涯学習です。

僕としては、文化や娯楽なども「学習」の側面を含んでいるととらえています

1987.11.14 日本生涯教育学会資料集

「パソコン通信の双方向性と相互学習　－その現状と可能性－」

情報技術の高度な発達は、物質的条件としては市民の「情報」への主体的な参加を可能にしている。中でも、特にパソコン通信に注目する必要がある。パソコンと電話とそれをつなぐモデムがあれば、あとは通常の電話料金の負担だけで、在宅のままリアルタイムな情報の入手と検索、そして「情報発信」ができるのである。

現在、数多く開かれているパソコン通信システムでは、ホスト側の電話回線をいくら増設しても、いつも話し中になってしまうほどの盛況である。パソコン通信は、大した「覚悟」なしに気軽に参加でき、しかも直接に主体的参加ができる魅力があるからであろう。だが、そうは言っても、パソコン通信の情報の「中身」が、全面的に素晴らしい相互学習として展開されているかというと、実はそうではない。

たとえばパソコン通信の中にブレティンボード（掲示板）システムというのがある。これは、さまざまなテーマのボードがホストコンピューターの中に設定されていて、メンバーは、自分のパソコンから、好きなボードに自由に意見を書き込んで「掲示」するものである。見知らぬ人の書き込みへのレスポンス（賛否の意見、質問など）も気軽にできる。ところが、その中身を見ると、アニメ、コミック、アイドルなどについてのたわいないおしゃべりがけっこう多いのである。　また、他方では、そんな自らの情報発信よりは、「金になる」情報の収集さえできればということで、株式売買のためのパソコン通信利用がまたたく間に普及してきている。

このような「現状」を見ると、いわば「押し出す先の決っている」プッシュ型の教育の観点からは、パソコン通信を「たいした可能性がない」と切り捨てることになろう。

しかし、現代のようなディスコミュニケーション時代に、パソコン通信の中で人が自ら主体的な情報発信をしていること自体、すでに大きな価値がある。私自身、ディスコダンスのステップに関するＳＩＧ(Special Interest Group)などを開いて、「たわいない」情報交換などもしているが、それはそれでなか
なか楽しいものである。それらは新しい時代の価値を創造する人類の学習の営みと、非連続なものではないと考える。

パソコン通信の中で、ボランティア、エコロジー、町づくりなどの議論、文化や知や人間の生き方に関わる発言などが見られるようになってきているが、それはこれらの「たわいない」やりとりと「共生」しているのである。

イロ・モノ・カネに関わるなまなましい学習（？）需要をみくびることなく、その量的・質的発展を志すプル型の学習援助の姿勢が求められているのではないだろうか。

つけくわえれば、公的な学習情報提供システムは、この民間のダイナミックなパソコン通信活動といかに関連を持つのかが今後の課題となろう。すなわち、パソコン通信を取り入れるのか、その中に混在化させるのか、並立しながら連動するのかということである。

「　パソコン通信の双方向性と相互学習　　ーその現状と可能性ー　」

国立教育会館社会教育研修所専門職員　　西村美東士

１　パソコン通信における相互学習の基盤

相互学習

↑↑↑↑

（通信内容の性格）

内容の総合性　各会員の異質性

↑↑↑↑

（通信条件）

双方向　即時　在宅　蓄積　検索　経済性

２　パソコン通信が与える知的試練

●ＲＯＭ（Ｒｅａｄ　Ｏｎｌｙ　Ｍａｎ）　－　書き込みをしない人の存在　－

なぜ書き込みをしないか・・・

手軽に書き込みができるが、一度書き込むと、予想外のレスポンスがあり、その対応に追われる。多忙な人にはかなりの負担となる。

しかし、ＲＯＭになってしまう要因はそればかりではないと思われる。

一つには、自己の思考を文章で表現する作業が強いられることへの忌避がある。

二つには、知の防衛機制、すなわち恥や照れによる消極化がある。他の人に、しかも見も知らぬ人に自分の「あさはかさ」を知らすことへの恐れである。

ＣＡＩが「相手が機械だから、何をどう答え、質問しても恥ずかしくない」という理由から、意外に中高年齢層に好評なのと対照的である。

三つには、情報収集は得であるが、情報発信は得にならないという気分がある。

しかし考えてみれば、これらのパソコン通信の「困難」は、そのまま、今後の情報化社会に必要なリテラシー獲得のための、そして人間が知の主体として生きていくための、乗り越えるべき知的試練としてとらえられるのではないだろうか。

３　パソコン通信の知的ツールとしての特性

予想外の異質な人から、予想外の異質なレスポンスを得ることができる。

各自にあった内容とペースで、参加することができる。また、１対１、１対複数、複数対複数の交信を自由に選択することができる。すなわち、オープンスペースでの学習と通じるところがある。

一言ずつのやりとりもできる。そのため、自分の考えがまとまらないままでも気軽に書き込んで、交信できる。

オーソライズされた情報ではなく、不定型の思考や知恵を得ることができる。いわば、良い意味での「耳学問」である。

オンラインのまま、文章を書き込むことができる。特にチャット（リアルタイムのおしゃべり）は、かつてなかったコミュニケーションの形態である。

通信内容が、いわば印刷教材として、安易かつ経済的に保存できる。

４　「知」に関する論議の実際の例

知的「技術」・「生産」や、「知」そのものへの関心と懐疑など、実用的論議と根源的な問いが対抗しつつ共存。

５　相互学習援助の視点から見たパソコン通信の課題

システムオペレーターなどの役割

禁欲的な条件整備者か。

積極的な援助者か。

「ユーザー教育」意識の克服。

著作権の取り扱い

メンバーの著作権の尊重か。

「情報ボランティア」意識の形成か。

在宅メディアとしての問題点の克服

集合学習の単純な対置では後向き。

フェースツーフェースのコミュニケーションを不要とするのではなく、むしろその模擬・増幅・補完の機能を。

パソコン通信の裾野の拡大

情報ネットワークの風土の形成

「得する」情報を求めるだけの受動的情報摂取姿勢から、情報と認識の主体的交流のネットワークへ。

８７／１０／５　青少年問題研究会レジメ

「　パソコン通信の双方向性と相互学習　ーその現状と可能性ー　」

西村美東士

１　コンピュータ利用の成熟化の側面としてのパソコン通信

高性能を誇示して特殊化、異端化することを嫌い、それをごくフツーのものとして軽く受け流しているような自動車をむしろオシャレなクルマとする動きがすでにある。（自動車評論家　舘内端　日経　87-9-26）

「清書マシン」から「推敲マシン」、「コミュニケーションマシン」へ

透明感（トランスペアレンシー）を尊重するようになった

２　双方向という通信条件（「学習」の物質的条件）

双方向　即時　在宅　蓄積　検索　経済性

３　パソコン通信による学習の「相互性」の意味

１対１、１対Ｎ、Ｎ対Ｎの混在（＝オープンエデュケーション）

予想外の異質な人から、予想外の異質なレスポンスを得る

「異質の交流」・・・たとえば人生肯定派と人生否定派の交流

直接的交流の阻害要因にはならない

フェースツーフェースのコミュニケーションの模擬・増幅・補完の機能

４　新しい学習方法・形態としての双方向パソコン通信
ホロン、水平的分業、ネットワーク型の学習
アマチュアと知的プロの「無境界化」
不定型の思考や知恵・・・新しい「耳学問」学習
「気軽」「安易」に活字の文章を量産する
通信内容が、いわば印刷教材として、安易かつ経済的に保存できる
自分の考えがまとまらないままでも気軽に書き込んで交信する
特にチャット（電子おしゃべり）は、新しいコミュニケーションの形態
５　パソコン通信の与える知的試練
「作文教育（学習)」
ＲＯＭ（Read Only Man ）はなぜ、ＷＲＩＴＥしないか。
知的行動や情報行動における消極性および「学力」不足
６　「知」とパソコン通信
「知性」「知的技術」「集団作業」への関心と「反発」(反知性主義)
「知」に関連して、実用的論議と根源的な問いが対抗しつつ共存。
７　パソコン通信による学習を公的機関が援助する場合の視点
「イロ、モノ、カネ」の「学習」と価値創造の学習の連続性の認識
「押し出す先の決っている」プッシュ型から現状の「学習」援助のプル型へ
パソコン通信を新たに設置する、既存の中に入る、側面から連動する
システムオペレーターは禁欲的な条件整備者か、積極的な学習援助者か
「ユーザー教育」意識の克服。
メンバーの著作権の尊重か、「情報ボランティア」意識の形成か
在宅メディアとしての問題点の克服－集合学習の単純な対置では後向き
パソコン通信の裾野の拡大（公衆端末の設置など）
情報ネットワークの風土の形成援助
「得する」情報を求める受動的情報摂取姿勢から、主体的交流へ

８７／１０／５　青少年問題研究会問題提起
「パソコン通信の双方向性と相互学習」
ーその現状と可能性ー
西村美東士

１　ハイテク症候群の一現象とは違うのか
２　パソコンマニアの「趣味」にすぎないのではないか
３　単にニューメディアの一つにすぎないのではないか
４　人間的交流をむしろ疎外するものなのではないか
５　「学習」といえる「しろもの」なのか

６　軽薄短小であり、重厚長大であるべき「知」となじまないのではないか
７　公的機関がタッチする必要性があるのか
８　公的機関がタッチする余地はあるのか
９　パソコン通信の現状に対しての社会的課題、教育的課題は何か

1987.11.14 日本生涯教育学会発表
「　パソコン通信の双方向性と相互教育力　ーその現状と可能性ー　」
国立教育会館社会教育研修所専門職員　　西村美東士
０　新しい学習集団の形成
新しい学習形態－＞学習集団－＞学習内容
共通の目的がない
「人為的、単一機能的、合理的＜－＞自生的、複合機能的、情緒的」という従来のパターンから、端的な人為性、各単一機能の交錯、合理性と情緒性の意識的混在、個人的行為と集団的行為の混沌化という新しい集団機能の誕生
「大衆文化」の新しいトレンド
１　パソコン通信における相互学習の基盤
新しいコミュニケーション環境
パソコンのインパクト、パソコン通信のインパクト・・スタンドアローン
コンピュータ利用の成熟化の側面としてのパソコン通信
　高性能を誇示して特殊化、異端化することを嫌い、それをごくフツーのものと　して軽く受け流しているような自動車をむしろオシャレなクルマとする動きが　すでにある。（自動車評論家　舘内端　日経　87-9-26）
　透明感（トランスペアレンシー）を尊重するようになった
双方向という通信条件（「学習」の物質的条件）
　双方向　即時　在宅　蓄積　検索　経済性
　１対１、１対Ｎ、Ｎ対Ｎの混在（＝オープンエデュケーション）
「気軽」「安易」に活字の文章を量産している
通信内容が、いわば印刷教材として、安易かつ経済的に保存できる
２　パソコン通信の知的ツールとしての特性
予想外の異質な人から、予想外の異質なレスポンスを得る
　「異質の交流」・・・たとえば現実派と理想派との葛藤と交流
新しい学習方法・形態としての双方向
　ホロン、水平的分業、ネットワーク型の学習
　アマチュアと知的プロの「無境界化」
　不定型の思考や知恵・・・新しい「耳学問」学習
　自分の考えがまとまらないままでも気軽に書き込んで交信する

　チャット（電子おしゃべり）は、新しいコミュニケーションの形態
　コミュニケーションの階層構造とパソコン通信コミュニケーションの位置
知的主体としての感覚を取り戻す
　パフォーマンス
　知的サロン・・仮想空間の積極的評価
３　パソコン通信が与える知的試練
ＲＯＭ（Read Only Man ）はなぜ、ＷＲＩＴＥしないか。
　知的行動や情報行動における消極性および「学力」不足
　「作文教育（学習)」の必要
４　「知」に関する論議の実際の例
「知」とパソコン通信
　「知性」「知的技術」「集団作業」への関心と「反発」（反知性主義）
　「知」に関連して、実用的論議と根源的な問いが対抗しつつ共存
５　相互学習援助の視点から見たパソコン通信の課題
ユーザー教育の質的転換
　システムオペレーターは禁欲的な条件整備者か、積極的な学習援助者か
社会的「弱者」のためのパソコン通信の意義
　交通手段による物理的制限などがない
　物理的・精神的に閉じ込められた狭い世界のワクを突破できる
情報ネットワーク風土の形成
　得する情報を求める「受動的情報摂取態度」から、主体的交流へ
　メンバーの著作権の尊重か、「情報ボランティア」意識の形成か
　率直にさわやかに批判できる知的風土の形成
パーソナリティー形成への影響、特に青少年
　パソコン通信によってしかコミュニケートできない危険
　在宅メディアとしての問題点の克服－ただし集合学習の単純な対置でなく
　フェースツーフェースのコミュニケーションの模擬・増幅・補完の機能として従来の社会教育の不十分さの改善・・・教育の主要な要素としての自発性
　「イロ、モノ、カネ」の「学習」と価値創造の学習の連続性の認識
　押し出す先の決っているプッシュ型から現状の「学習」を援助するプル型へ
学習援助の観点に立ったパソコン通信関連の生涯教育行政のあり方
　パソコン通信の新たな開設、既存システムへの参加、側面援助
　パソコン通信の裾野の拡大（公衆端末の設置など）
付　パソコン通信における地域性と広域性の関係
パソコン通信の広域的可能性
パソコン通信における地域性

各地での草の根ホスト局の誕生
「超地域」（国民として、地球人として）から地域が始まる
「実態が表出する場面」としての地域への関心
「人間的な交流の場面」としての地域への関心